

6月21日（日）主日礼拝レジュメ

「悔い改めを待っておられる方」 使徒の働き 7章 51～53節

「うなじを固くする、心と耳に割礼を受けていない人たち。」の「うなじを固くする」とは、強情だということ。これは特に、神に対して強情だということを意味する。「心と耳に割礼を受けていない人たち」とは、比喩的な表現で、心と耳を覆っている包皮、神に聞き従おうとしない頑なさであったり、神に逆らう思い、悔い改めない心を取り除かれていないということ。神との契約は決して無条件の祝福ではない。

- ① 申命記 4章 40節「今日、私が命じる主の掟と命令を守りなさい。あなたも、あなたの後の子孫も幸せになり、あなたの神、主が永久に与えようとしておられるその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。」

条件は「私が命じる主の掟と命令を（＝律法）を守りなさい。」で、その結果として「あなたも、あなたの後の子孫も幸せになり、あなたの神、主が永久に与えようとしておられるその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。」と言われている。心と耳に割礼を受けて、主の掟と命令を守り行うことにより始めて神の祝福を受けることができることを忘れてはならない。むしろ、ユダヤ人は、肉体に割礼が施されていることに満足し、決して神のみこころに従おうとしなかったことが問題であったと言える。「あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。」の「逆らっています」と訳されている動詞の時制は、繰り返しを意味している。いつもという言葉がついて強調されているが、繰り返し聖霊に逆らっているということ。

「あなたがたの先祖たちが逆らったように、あなたがたもそうしているのです。」と言っているが、モーセを通して聖霊は語り、預言者を通して聖霊は語り、イエスを通して聖霊は語り、聖霊に満ちた使徒たちやステパノのような人物を通して聖霊は語り、律法を通して聖霊は語ったけれども、先祖たちも聖霊に逆らい、あなたたちも聖霊に逆らい、決して聞き従おうとしない、それがうなじを固くする、心と耳に割礼を受けていないということだとステパノは語っている。

5 2 節「あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたでしょうか。」預言者、主のことばを通して人々の信仰を正そうとしたが、そのことを受け入れず、悔い改めようとしなかった民によって預言者たちは、迫害され、命までも奪われた。そして預言者たちは、正しい方、イエス・キリストが来られることを前もって告げたが、この方を裏切る者、殺す者となったということです。

5 3 節「御使いたちを通して律法を受けた」とは、

- ② ガラテヤ人への手紙 3 章 1 9 節「それでは、律法とは何でしょうか。それは、約束を受けたこの子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたものです。」

律法はモーセのような人を介してとか、御使いを介してとか、何らかのかたちで神が直接的に民に与えたものではないことを強調しているのかもしれませんが。いずれにいたしましても、ステパノは律法を受けたのにそれを守らないのはあなたたちだと言っている。

5 1 節でステパノは、「あなたがたの先祖たち」と言います。これまでは 2 節「私たちの父アブラハム」 1 2 節「私たちの父祖たち」 1 9 節「私たちの

同胞」「私たちの先祖たち」44、45節「私たちの先祖たち」と、ずっと私たちと言ってきたのが、51節では「あなたがたの先祖たち」と言っている。つまり、ステパノにとっては預言者を迫害した先祖たちや神に逆らい続けた先祖たちは、もはやあなたがたの先祖であって、自分の先祖ではないということの意味している。なぜなら、ステパノは、神に従う者、6章3、5節にあるように、御霊に満ちた者、聖霊に満ちた者とされているから。

ステパノは、最高法院にいる人たちを一方的に攻撃しているのか。そうではない。むしろステパノは、人々が彼の言葉を受け入れて、自分の過ちや罪を悔い改めることを願っていた。主なる神ご自身がそのことを願っていた。

神は聖書のみことばにより私たちの罪を責めるということではなく、私たちが自分の罪を認めて、主の御前に悔い改めるのを待っておられる。

私たちもイエス・キリストにある救いを通して、信仰によるアブラハムの子孫と呼ばれる者とされているが、私たちの信仰の歩みがいつの間にか、ステパノの言うユダヤ人のようになっていないか。つまり私たちもまた「うなじの固い、心と耳に割礼を受けていない者たち」、「聖霊に逆らい、みことばを守ろうとしない、そのような者たち」の仲間入りをしてしまっていないか。願わくば、御霊と知恵とに満ちた、信仰と聖霊に満ちたステパノこそが、私の信仰の先祖、私の信仰のあるべき姿ですと言える者とさせていただきたい。